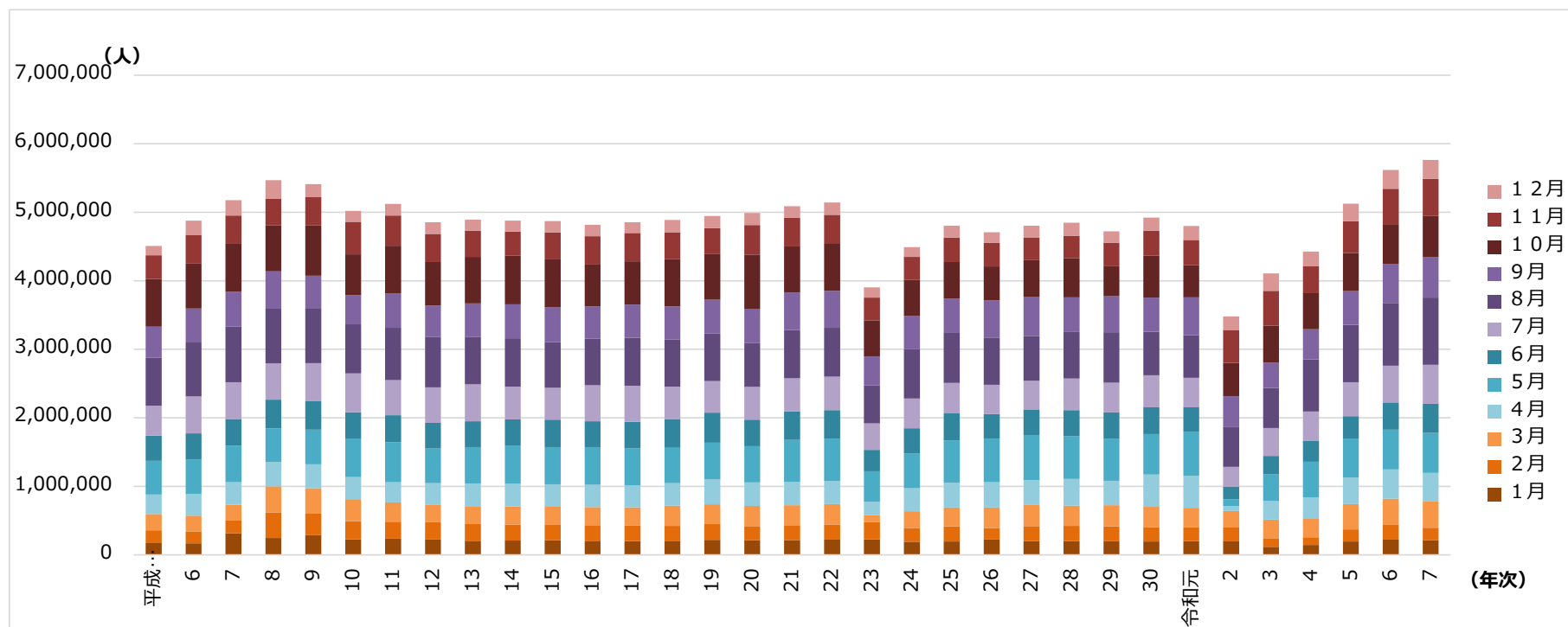


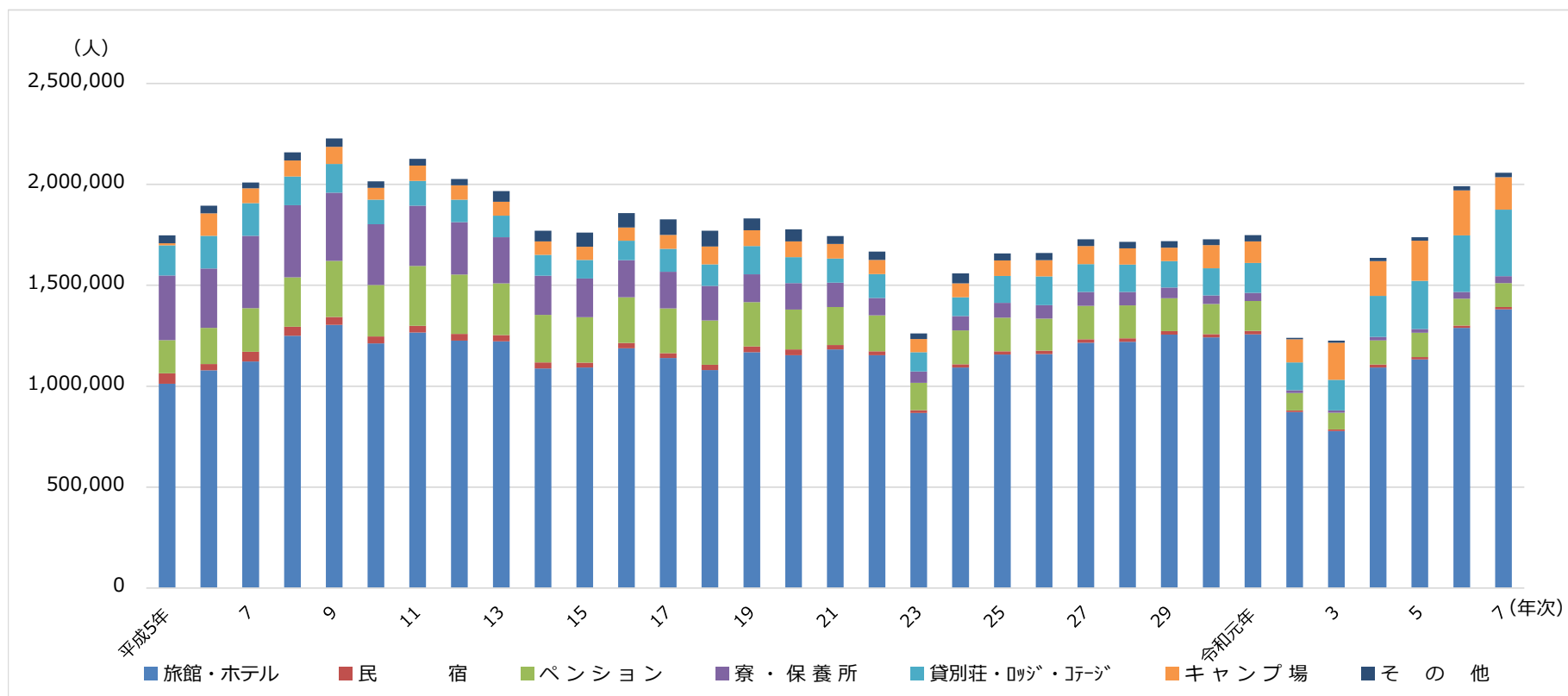
〈那須町〉観光客入込みの推移



令和7年の那須町における観光客入込数は、前年に過去最高を記録した令和6年の水準を維持しつつ、全体として安定した推移となった。全国的には観光需要はコロナ禍後の回復段階から平常的な推移へ移行し、本町においても大きな変動のない安定した来訪状況が確認された。

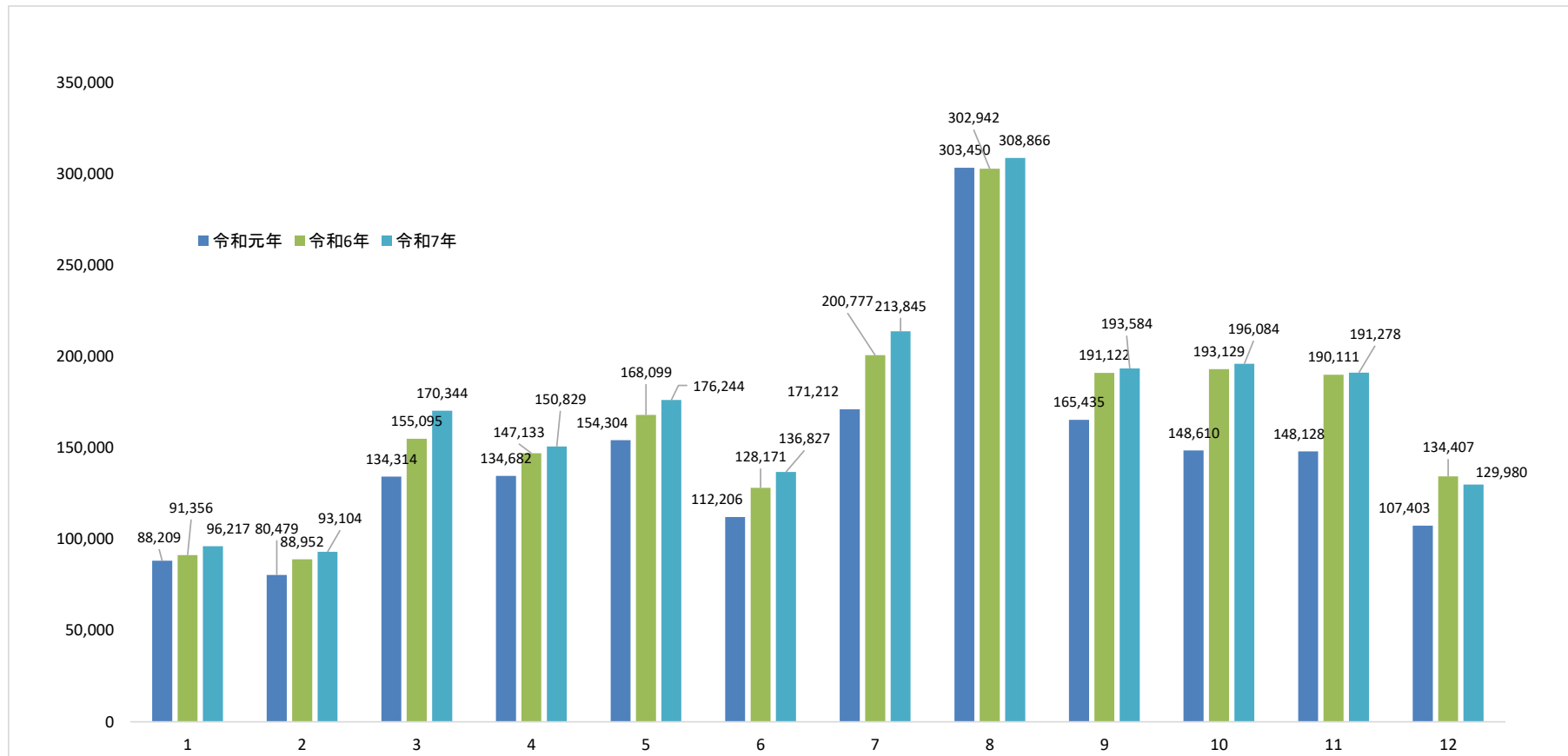
季節別に見ると、冬季は町内スキー場の閉業という観光環境の変化があったものの入込数は前年水準を維持した。春季はゴールデンウィークが飛び石連休となり同期間単体では入込数が前年を下回ったが、来訪時期の分散や5月中旬の道の駅那須高原友愛の森なすとらんリニューアルオープン以降の利用増加により、期間全体では前年同期を上回る結果となった。夏季は全国的な猛暑傾向を背景とした避暑需要により高水準の来訪が維持され、家族利用の多いレジャー施設の入込数の伸びが伺えた。秋季は紅葉時期の遅れが見られたものの観光期間の長期化により来訪期間が分散し、さらに紅葉最盛期と連休の好天が重なったことで、那須ロープウェイをはじめとするレジャー施設では高い利用水準が見られた。

〈那須町〉 年別宿泊施設利用状況



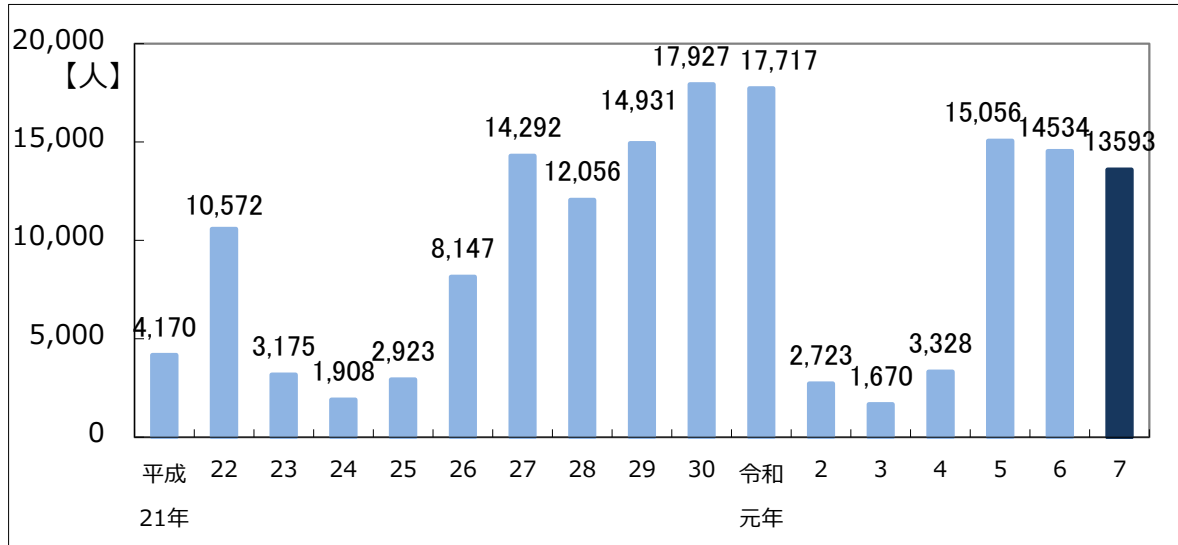
令和7年の宿泊施設利用状況は、前年に引き続き堅調に推移し、年間宿泊者数は2,057,202人となり、平成12年以降25年振りに200万人台を記録した。町内の宿泊者の利用の中心となっている「旅館・ホテル」の宿泊者数は1,381,216人となり、前年の1,289,320人から65,908人(103%)増加した。これは観光入込客数の増加率と概ね同水準で推移しており、来訪者の増加に伴って宿泊利用も同様に増加している状況が確認される。宿泊施設の利用構成を見ると、「旅館・ホテル」利用が宿泊者数の中心となっている一方、「貸別荘・ロッジ・コテージ」や「キャンプ場」などのアウトドア型宿泊施設の利用も多く、本町の自然環境を活かした多様な宿泊形態が利用されている。

〈那須町〉 月別宿泊者数の推移



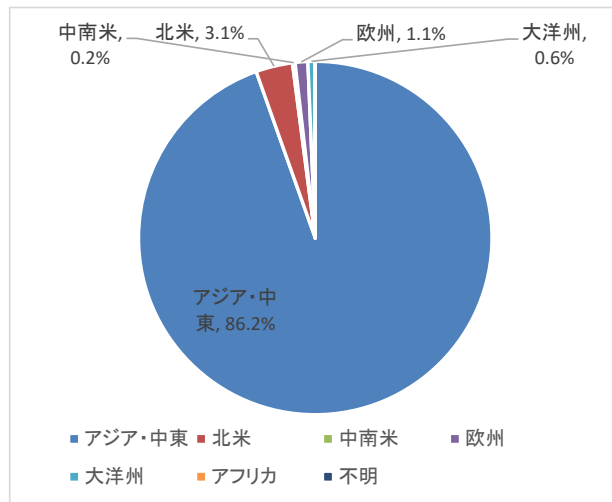
令和7年の那須町における月別の宿泊者数を見ると、特に夏季を中心に宿泊利用が多く、8月の宿泊者数は約30万人となっており、年間宿泊者数の約15%を占めている。これは、夏休み期間中の家族旅行を中心とした宿泊需要がみられ、本町の避暑地としての特性を背景に多くの宿泊利用が確認される。また、5月のゴールデンウィーク期には行楽シーズンに伴う宿泊利用の増加が見られるほか、10月には紅葉観光の時期と重なることにより宿泊者数が増加しており、年間を通して複数の需要期が形成されている。自然景観やレジャー施設など多様な観光資源とあわせて季節ごとに異なる観光目的による来訪が確認される。

〈那須町〉外国人観光客宿泊者数

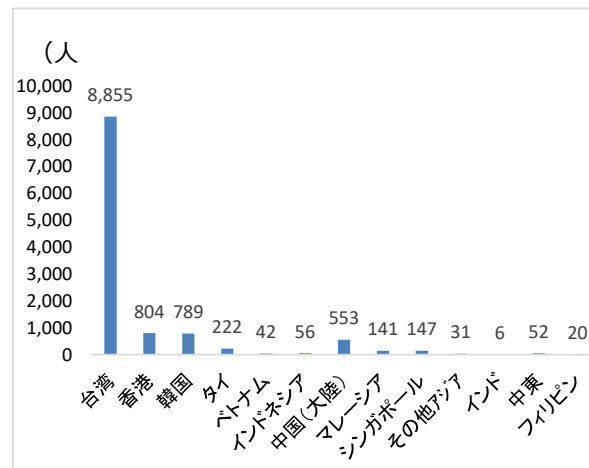


令和7年の外国人宿泊者数は前年同期比で、約93%となった。全国的には、訪日外国人旅行客数は大きく回復しているが、インバウンド需要回復期においては、訪問地が都市部へ集中する傾向がみられ、旅行行動の変化が生じていると考えられる。また、災害リスク情報の影響や旅行先の多様化による需要分散が重なり、香港市場における訪日旅行需要が減少したことに加え、中国市場の回復の遅れもみられた。アジア圏からの旅行客が大半を占める那須町においては、これらの市場動向の影響を受けたものと考えられる。

令和7年 外国人宿泊数（地域別割合）



令和7年 外国人宿泊数（アジア・中東）



令和7年 外国人宿泊数（月別）

